

授業科目		教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択
薬理学		BNSB2L12	20205	1後	1(30)	必修
担当教員	岸 正					
概要	薬とは何か。体内に薬物が入ったときにどのような作用が現れるのか、分子・細胞・臓器・個体レベルでの薬物の作用機序と人体・疾患・症状への影響(作用・副作用)について解説したい。また、薬物相互作用についても述べる。加えて与薬方法と注意項目、観察ポイント、副作用の対策、管理上の留意点など、看護実践に役立つ基本的知識を教示したい。毎回講義資料を配布するので、これをもとに復習及び次回の予習を行うこと。					
学修目標	①主要な疾患に対する治療薬を挙げることができる。 ②薬の作用機序と注意すべき副作用を説明することができる。 ③与薬の際の注意事項を述べることができる。 ④剤形の違いについて利点と欠点を比較することができる。 ⑤濃度計算が誤りなくできる。					
DPとの対応	知をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力	
	科学的論理的思考力	○	全人的人間理解	○	職業倫理と人権擁護	
	探求力と生涯学習能力	○	ケアリングとコミュニケーション		適切な看護実践	◎
回	学修内容			予習・復習内容		
1	はじめに、薬物の種類、看護師の役割、用法用量とは、種々の作用			教科書のはしがきと第1章薬理学を学ぶにあたってをよく読んでおくこと。		
2	薬物の体内動態、薬効に影響を及ぼす要因、処方箋や与薬に関する注意点			予習内容の詳細は、前回配布講義資料の次回講義内容欄を参照のこと。		
3	薬の有害作用(副作用と薬害、耐性と薬物依存)、薬の適用			〃		
4	各種製剤と濃度計算			〃		
5	抗感染症薬			〃		
6	交感神経作用薬と副交感神経作用薬①			〃		
7	交感神経作用薬と副交感神経作用薬②、免疫抑制薬			〃		
8	麻酔薬、筋弛緩薬、催眠薬、抗不安薬			〃		
9	抗精神病薬、抗うつ薬、抗てんかん薬、麻薬性鎮痛薬			〃		
10	抗がん薬			〃		
11	抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬、抗炎症薬			〃		
12	ジギタリス、抗不整脈薬、狭心症治療薬			〃		
13	糖尿病治療薬、痛風治療薬、パーキンソン氏病治療薬			〃		
14	利尿薬、降圧薬			〃		
15	高脂血症治療薬、制吐薬、抗血液凝固薬、薬物中毒とその解毒薬、まとめ			〃		
使用テキスト	系統看護学講座 薬理学 医学書院					
参考図書	授業中に適宜、提示する。					
成績評価基準	定期試験100%					